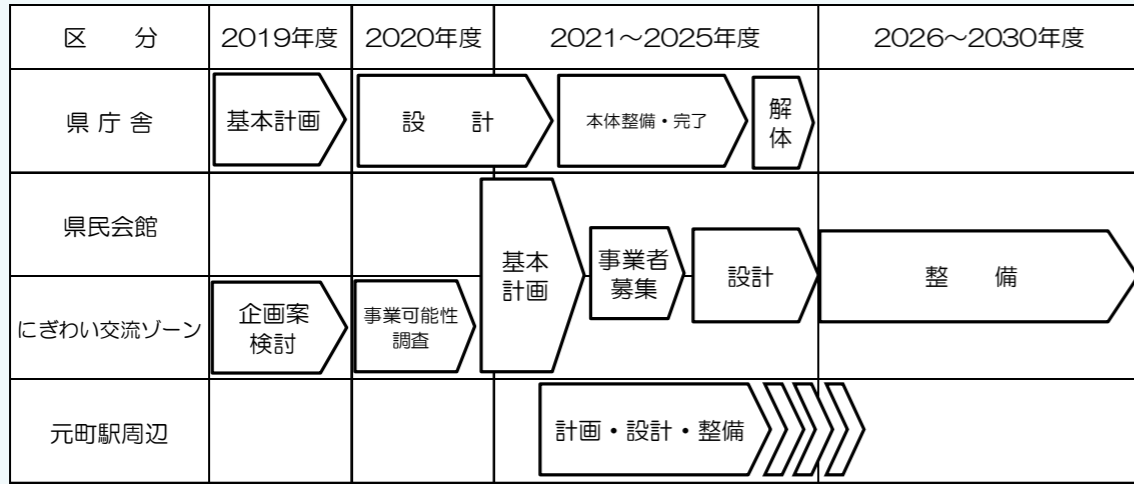


### Ⅲ 今後のスケジュール

今後、新庁舎に備えるべき具体的な機能や周辺地域の具体的な整備方針などについて、今年度に策定する基本計画の中で検討予定



### Ⅳ 県が考慮すべき事項

#### ① 県民意見の反映

基本計画の策定にあたっては、県民モニターアンケートやパブリックコメントを実施し、県民の意見・提案を広く反映

#### ② 整備規模の精査

今後、基本計画の策定にあわせ、効率的な業務のあり方やオフィス環境のあり方を検討し、規模や機能を精査

#### ③ 事業費の縮減

本県の厳しい財政状況を勘案し、可能な限りコスト縮減や整備期間の短縮、公民連携手法や民間活力の導入を検討するなど、財政負担の軽減に努める。

#### ④ 財源の確保

整備費用の負担を軽減するため、定期借地権収入の確保などの財源確保策を検討

#### ⑤ エリアマネジメントの推進

県民、民間事業者、神戸市、県等が連携して、県庁周辺地域の価値を向上させる方策を検討

#### 兵庫県 企画県民部 新庁舎整備室

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

電話 (078)341-7711 (内線) 2623

FAX (078)362-9489

E-mail : shinchosha\_kikaku@pref.hyogo.lg.jp

URL : [https://web.pref.hyogo.lg.jp/town/cate3\\_260.html](https://web.pref.hyogo.lg.jp/town/cate3_260.html)

## 県庁舎等再整備基本構想の策定について

令和元年6月

### はじめに

- 阪神・淡路大震災により大きな被害を受けた県庁舎は、大規模地震に対する安全性基準であるIs値0.6を大きく下回ることが判明。大震災を経験した本県としては、南海トラフ地震等の災害対策として、防災拠点に求められる耐震安全性の早期確保が喫緊の課題。
- また、兵庫県民会館や神戸総合庁舎など老朽化した県有施設も点在。さらに、元町駅を挟んだ南北の人の回遊性の向上などの課題もあり、周辺施設のあり方もあわせて検討が必要。
- このため、学識者等による検討委員会を設置するとともに、県民の代表である県議会の意見も伺いながら県庁舎や周辺地域の再整備の基本的な方針として、基本構想を策定。

### I 県庁舎及び周辺地域の課題と再整備の方向性

#### 【課題①】 県庁舎の耐震安全性

- 大地震に対する安全性基準であるIs値0.6を下回る。

	1号館	2号館	議場棟	別館	西館
Is値	0.30	0.37	0.32	0.35	0.16

- 南海トラフ等の大地震が発生した際、倒壊に至る可能性は低いと考えられるものの、継続使用できないと推測

#### 【方向性】

- 耐震安全性の確保や老朽化などの課題への対応、整備コスト等を比較検討し、「耐震改修」ではなく「建替」により再整備

(県庁舎の概算事業費)

	建替	耐震改修
整備時	約500～540億円	約400億円
70年コスト	約680～720億円	約780～820億円

※70年コストは初期整備費と修繕費で算出

#### 【課題②】 県有施設の老朽化等

- 県民会館は老朽化し、神戸県民センターは、今夏に新長田合同庁舎へ移転
- 生田文化会館(神戸市施設)は、地域福祉センターの機能を除き、新中央区総合庁舎へ移転する計画
- 跡地の一体的な活用方策の検討が必要

#### 【課題③】 地域全体のまちづくり

- 核となる集客施設がなく、三宮周辺地区や元町駅南側と比べると地域内の回遊性が低い。
- 元町駅を挟んで南北の高低差が通行の障害

#### 【方向性】

- ①行政系機能と②芸術文化系機能の充実に加え、③世界的ブランドのホテル、外資系企業オフィス、IT等の先端産業の開発拠点等のにぎわい交流機能を付加し、まち全体としてのにぎわいと活力を創出
- 元町駅から北側の歩行者動線を「まちのシンボル軸」とし、魅力を向上
- 元町駅西口から北側への通路をバリアフリー化

## II 基本的な考え方

### ① 県庁舎再整備 (概算事業費 約500億円～約540億円)

基本理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全・安心な県民生活や経済活動を支える広域的な防災拠点として高い耐震性を確保</li> <li>○多様性と連携を活かした兵庫の未来づくりを実現する県政の中枢拠点にふさわしい先進的な機能を備えた庁舎として再整備</li> </ul>
基本方針	① 安全・安心な県民生活や経済活動を支える広域防災拠点の整備 (高い耐震性能、災害対策ツター・県警との連携強化、セキュリティ対策強化など)
	② 質の高い行政サービスの提供 (業務の高度化・効率化に対応できるICT化、県関係機関の集約など)
	③ 県民の利便性向上 (ユニバーサルデザイン、アクセスルートのバリアフリー化、県議会の傍聴機能、情報発信機能の充実など)
	④ 兵庫の魅力の発信 (県政情報・兵庫五国の魅力発信、周辺と調和した魅力的なデザインなど)
	⑤ 地球環境への配慮 (再生エネルギーや県産木材の利用、ライフサイクルコストの低減など)



### ② 県民会館再整備 (概算事業費 約150億円～約160億円)

基本理念	<p>人生100年時代の到来やワークライフバランスの実現により、「自分時間」が充実するなか、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 県民が自己実現や生きがいづくりのために行うさまざまな文化活動</li> <li>② 生涯を通じた学び直し、外国人が日本文化に触れる場など、多様な人々が集う幅広い活動の拠点として再整備</li> </ul>
基本方針	① 気軽に良質な芸術文化に親しむ環境 (鑑賞機会、自由な創作活動や成果の発表機会の提供など)
	② 人材育成と情報発信 (若手芸術家等の活動を応援し、交流する場づくり、総合的な情報発信機能強化など)
	③ 県民の幅広い交流拠点 (学び直しや青少年育成のための活動支援、外国人が日本文化に触れる機会の提供など)
	④ 存在感のある華やかなデザイン (若手芸術家等が憧れを持つような高いデザイン性、開放的で潤いのある空間計画の整備など)

### ③ にぎわい交流ゾーン整備

基本理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県庁舎の建替にあわせて、相楽園等の既存交流資源と連携するとともに、人々が集う文化拠点として再整備する県民会館との相乗効果を生み出す観光、宿泊施設などの誘致により、人々が集い、ふれあい、にぎわいが生まれる空間整備をめざす。</li> <li>○県庁周辺の豊かな地域資源や地域特性を十分に活かし、調和のとれた都市空間を創出</li> </ul>
基本方針	① 2号館・県民会館跡地の施設整備 ア 新たなにぎわいの創出 (来街者が憩い、滞留できるにぎわいスポット誘致など) イ 国際的な交流拠点の誘致 (世界的ブランドのホテル、外資系企業オフィス、IT等の先端産業の開発拠点等の誘致など) ウ 複合施設の整備 (レストランやショッピング、カンファレンス、オフィスなどのニーズに対応する複合施設整備など) エ 民間ノウハウの活用
	② 神戸総合庁舎跡地の施設整備 (2号館跡地等と同様の方針に基づき整備)
	③ 緑豊かな都市空間の整備 (景観形成のルールづくり、誰もが容易にアクセスできる空間づくりなど)

